

子どもたちを「ドキドキ ワクワク ジンジン」させた

第16回鶴田町子どもの祭典

の祭典

2月28日(日)、鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」で、鶴田町子ども会育成連絡協議会(中村琢司会長)主催「第16回鶴田町子どもの祭典」が開催され、管内の子どもたち約200人が、さまざまなイベントを楽しみました。

開会セレモニーで中野町長から、「朝ごはん食べてきましたか」の呼び掛けに、子どもたちは大きな声で「ハイ」と返事をし、楽しいイベントがスタートしました。

この祭典では、町のジュニアリーダーズクラブ「HIZURU」の中高生リーダーたちが、企画から準備、当日の進行まで、すべてを自らの手で行い、また、いたるところで子どもたちの指導にもあたります。

開会セレモニーが終わると、町の読み聞かせ支援隊による「たのしい読み聞かせ」が始まり、その後、ジュニアリーダーたちによる「ゲーム」が行われ、お昼には「おたのしみタイム」と称して、各地区の子ども会が催す「たのしいお店」が開店。今回は、4地区(亀田・寺町・公園通り・あさひ町)の子ども会が参加し、それぞれ

「たのしい読み聞かせ」
・写真右は鶴田町読み聞かせ支援隊の皆さんによる「あかいくし(青森のお話集)」のお話。写真下は「楽しい手遊び」をユニモアを交えて教えている様子。



「おどろきのサイエンスマジック」
・写真右はマサック先生が師匠と慕う岡元淳一先生の華麗なサイエンスマジック。電気や液体を使って子どもたちに「化学の不思議」を教えてくださいました。





れ知恵を出し合って作ったお店は子どもたちに大好評でした。また屋外ではジュニアリーダーによる「健康×クイズ大会」が開かれ、二者択一の問題に右の○か左の×かで右往左往していました。

午後のイベントでは、テレビでおなじみのマサツク先生が師匠と慕う岡元淳一先生（弘前市在住）が登場し、「おどろきのサイエンスマジック」が披露され、次々に繰り出す不思議なマジックに大人も子どももすっかり釘付けになっていました。

最後に、子ども会から子どもたちへのご褒美として、全員に「鶴田のおいしいお米」（田んぼの学校や富士見小学校で収穫したお米）が当たる「大ビンゴ大会」が開催されました。

早くビンゴした子どもには、お米とは別にスポーツバックやラジ

オ付き懐中電灯、子ども用防災グッズなども当たるとあって子どもたちは真剣でした。

ビンゴ大会のスペシャルゲストとして来てくれた国際交流員のアレックスさんが、巨大ビンゴボックスからボールを取り出しナンバーを読み上げると「今の何番なの？」と首をかしげる子どもたちがいいます。そうですアレックスさんは番号を英語で読むので小学生には分からないのです。そこで中高生のジュニアリーダーたちが小学生たちに通訳し、たくさんのお賞品が子どもたちに手渡されていきました。

子どもたちを「下キドキ（興奮）ワクワク（期待） ジンジン（感動）」させた今回の子どもの祭典。子どもたちの小さな胸にきつと大きな楽しい思い出が刻まれたことでしょう。



- ①②ジュニアリーダーの「ゲーム」でリーダーたちにじゃれつく子どもたち
- ③ゲームで行われた屋外での「おにごっこ」の様子
- ④お屋の「おたのしみタイム」では、ジュニアリーダーたちも「手づくりのお菓子」の店を開店
- ⑤亀田子ども会の「亀田のみへや」ではくじ・たご焼きが大人気
- ⑥最後に行われた「大ビンゴ大会」の様子。アレックスさんが番号を読み上げるが…